

守山小学校を核とした地域コミュニティのその後の展開

－「まもりやまテラス」と「まもりやまはたけ部」－

一般財団法人世田谷トラストまちづくり 地域共生まちづくり課

風間 委文字

(地域 コミュニティ 住民参加)

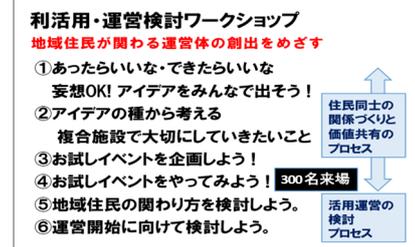
1. はじめに

世田谷区立守山小学校は1933年、代田6丁目に開校した歴史ある小学校である。近年は小規模学校の特色を活かし、地域運営学校として地域とともに子どもを育てる教育を推進してきた。2012年に近隣2校との統合が決定。2019年、小学校の既存建物を活用し、保育園、福祉作業所、地区会館からなる複合施設へと生まれ変わった。小学校を軸に育まれてきた地域の関係性がその後どのように引き継がれ今に至るかについて、現在も個人として関わる活動も含めて述べていく。

2. 経緯

守山小学校は、地域とのさまざまな連携により活用が行われてきた。地域行事（地域運動会、餅つき大会）のほか、「あったらいいな、こんな学校の会」（1999年～保護者や地域住民からなる市民グループ）は、小学校に地域住民が関わることでよりよい地域とよりよい学びの場にしていくことをめざし、環境学習を中心に活動を進めてきた。当財団の助成事業「公益信託世田谷まちづくりファンド」を活用して、自然観察会、ビオトープづくり、屋上緑化活動のほか、校庭の一角にウッドデッキを整備し、さらなる地域交流拠点づくりを進めた。

複合施設化にあたっては、これまでの地域との関係性や学校への想いを継承しながら、地域住民が運営に関わることのできる拠点としていくため、世田谷区は、住民参加型運営体の創出をめざすワークショップ（2017～18年）を開催した。当財団はこのワークショップの企画運営に関わった。



2年間のワークショップ（全6回）のプロセス

3. まもりやまテラスの会の取り組みと部活動「まもりやまはたけ部」

複合施設は、2019年、住民投票によって「まもりやまテラス」（以下テラス）と名付けられオープンした。地域住民が関わる運営体は、ワークショップ、準備会議を経て2020年に「まもりやまテラスの会」（以下テラスの会）として正式に発足した。メンバーは代田北町会、羽根木町会、保育園、福祉作業所、社会福祉協議会のほか、新たな拠点づくりに関心のある住民が参加し、現在も運営を行っている。施設利用ルールの検討、地域住民がテラスに関わるしくみづくりとその推進、ホームページや紙媒体などの情報発信、交流イベントの企画実施を中心に、試行を重ねながら走っている。従来の公共施設運営にとらわれない柔軟な発想でさまざまな試みに挑戦しており、これは世田谷区の担当所管の理解と協力があったことである。

テラスの会の特徴的なしくみのひとつが「部活動」である。地域住民がテラスで自ら行ってみたい活動を応援するしくみで、実現に向けてテラスの会がサポートする。いつでも誰でも参加できる「オープンな活動」と「テラス運営への協力」が条件となるが、テラスの会公認で施設内での活動が可能となる。これまで6の部活動が創出されている。

